

第3回 アクセシビリティデザインコンテスト開催

情報通信エンジニアリング協会

◎ 1. はじめに

平成24年11月2日（金）、NTT中央研修センター5号館において、第3回アクセシビリティデザインコンテストを開催しました。本コンテストは、設計技術に関する競技会であり、開催目的として①設計技術のさらなる高度化、②設計を通じた事故防止への反映、③各社間での設計技術の共有、を目的として今年で3回目の開催となりました（図1）。1回目は関東エリアのみの開催で、2回目より情報通信エンジニアリング協会（ITEA）の技術／品質委員会の取組みとして全国に拡大して開催しています。

本コンテストは全国の通信建設会社から42名の選手が参加し（表1）、また各通建会社から多くの応援者やNTT東西様からエンジニアリング部

門長をはじめ多くの方々にご来場いただき、コンテスト自体としては総勢約220名という大規模なイベントとなりました。

また、競技名称についてですが、今回より「アクセシビリティデザインコンテスト」に名称変更しました。なぜかといえば、前回までは「アクセシビリティデザイン・コンクール」の名称としていましたが、どうも言いにくいなど調べたところ、“アクセシビリティ”の英語と“コンクール”の仏語の2カ国語で構成されていたためでした。そこで今回より、英語に統一して「アクセシビリティデザインコンテスト」に変更させていただきました。この名称で覚えていただけるように、今後も充実させていきますので、どうかよろしくお願い致します。

◎ 2. 競技内容について

本コンテストは、全国の通信建設会社を参加対象にしており、電気通信設備工事におけるサービス総合工事規模の支障移転工事を題材にしたもので、各種設計条件に基づいて設計図面を作成する「設計競技」と、すでに実施設計された設計図面を基



写真1 ITEA 高島会長による開会の挨拶



写真2 NTT西日本 土井内EG部門長のご挨拶



写真3 NTT東日本 田辺EG部門長のご挨拶

図1 パンフレットとプログラム

プログラム		
	＜競技会場＞	＜応援会場＞
9:15～	受付	
9:45～	開会式・競技概要説明	
10:05～	実施概要説明	競技課題の解説
10:15～	設計競技 算定競技 (同時並行で実施)	新規光導入物品に関する説明
13:15～	屋食	12:30～ 屋食
14:00～	プレゼンテーション 競技者による作成設計図面に関する説明	
16:20～	全体講評・閉会	
～16:40	＜表彰会場＞	
17:00～	表彰・意見交換会	
～18:40		

表1 選手一覧

Aチーム	東日本	中西 誠也	池野通建(株)	Lチーム	西日本	谷口 成光	北陸電話工事(株)
		小林 忍				飯田 匡	
Bチーム	東日本	仲山 友規	(株)協和エクシオ	Mチーム	東日本	高瀬 智明	(株)ミライト・テクノロジーズ
		大畠 裕勇				柳下 登	
Cチーム	西日本	麻田 悟史	(株)協和エクシオ	Nチーム	西日本	松下 昌平	(株)ミライト・テクノロジーズ
		山田 泰之				續 順也	
Dチーム	東日本	帆足 有市	日本コムシス(株)	Oチーム	西日本	土居原 健太	日本電通(株)
		村田 祐司				福本 浩一	
Eチーム	西日本	大坪 幸夫	日本コムシス(株)	Pチーム	西日本	池本 一平	(株)ソルコム
		古後 隆二				中出 雄三	
Fチーム	東日本	岡田 康孝	(株)ミライト	Qチーム	西日本	岡田 英樹	四国通建(株)
		倉澤 淳也				渡邊 慶一	
Gチーム	西日本	山本 翔太	(株)ミライト	Rチーム	西日本	光武 勉	西部電気工業(株)
		中村 孝一				西峯 輝	
Hチーム	東日本	岩瀧 登	和興エンジニアリング(株)	Sチーム	西日本	松田 春	西日本システム建設(株)
		小出 大介				舩田 邦彦	
Iチーム	東日本	渡部 広樹	(株)TOSYS	Tチーム	東日本	菅井 翔太	大和電設工業(株)
		三富 誠				佐藤 健太郎	
Jチーム	西日本	安藤 明広	シーキューブ(株)	Uチーム	東日本	小笠原 博崇	(株)つうけん
		林 秀紀				谷 陽介	
Kチーム	西日本	小林 良弘	NDS(株)	参加選手 21チーム・42名			
		山田 隆徳					



写真4 競技中の選手模様



写真5 応援会場での競技課題の解説状況



写真6 選手による設計のプレゼンテーション模様

にサービス総合工事の適用工程を算定する「算定競技」の2つの競技課題に取り組みます。これら2競技の総合評価により、順位を競う競技としました。また、今回から競技への取り組み方法を個人からチームでの取り組みに変更しました。2名で構成されるチームにより、「設計競技」と「算定競技」を3時間の競技時間内でどのような協力をして良いこととしました。例えば、算定競技を担当する選手が先に課題を終了すれば、残りの時間を設計競技のサポートに回ることもできます(写真4)。

このチームによる取組みは、選手によるアンケートからも評判が良く、今後も継続できればと考えています。

(1) 設計競技について

設計競技で設計図面を作成するうえで考慮しないといけないこととしては、正確性、経済性、安全性等を追求するだけでなく、開通、行き詰まり解消、不安全設備解消、設備のスリム化など、工事発注者様への付加価値提案も取り込んだ設計が必要です。かなりレベルの高いものとなっています。実際の工事と同様にする

ため、工事注文書、折衝議事録、地形図、現場写真、ケーブル接続図、設備図等の資料が提示され、選手の皆様はこれらの資料に散りばめられた情報を読み取ったうえで設計図面を作成します(図2・3)。

選手の皆様が作成した設計図面を見ますと、坂道での高所作業車の正しい設置指示などの安全面に考慮した施工者への引継ぎ事項、不平衡柱の解消、ケーブル新設、設備のスリム化など、各種設計条件を取り入れた設計がなされており、今回で3回

るかを競うものとなっています。

(3) 審査体制について

設計競技と算定競技の課題については、NTT東日本エリアとNTT西日本エリアでは設計方法とサービス総合工事の工程が異なります。そのため課題の基本部分を同じにして東西の設計の違いを反映した東西別々の課題を準備し、選手により選択できるようにし、これにより課題の同等性を担保しています。この課題作成にあたっては、NTT-ME様と今回より加わったNTT西日本一関西様のメンバーとITEA東西研修センターのスタッフが取り組み、今回の審査も同じメンバーにより実施しました。

よく言われることですが、設計というものは、これが正解というような明確な解答があるわけではありません。本コンテストにおいても事前に模範設計例と具体的な審査項目を作成していましたが、選手ごとに設計図面は異なり、自らの経験や知識に基づき工夫された設計がなされています。それぞれの設計図面に審査者が複数名張りついて読み込み、事前に準備していた審査項目はもとより、想定していなかった良い設計ポイントがあれば加算していく方式により慎重に審査を行いました。また、競技後に実施した選手によるプレゼンテーションの内容もフィードバックして審査に反映しました。

3. プレゼンテーション

午前中の競技終了後に昼食を摂って選手全員による設計のプレゼンテーションを行いました(写真6)。選手の皆様からは、さまざまな工夫を凝らした設計方法や安全への配慮等についてプレゼンテーションしていただき、選手同士でのコメントも行いました。応援者の皆様も、他選

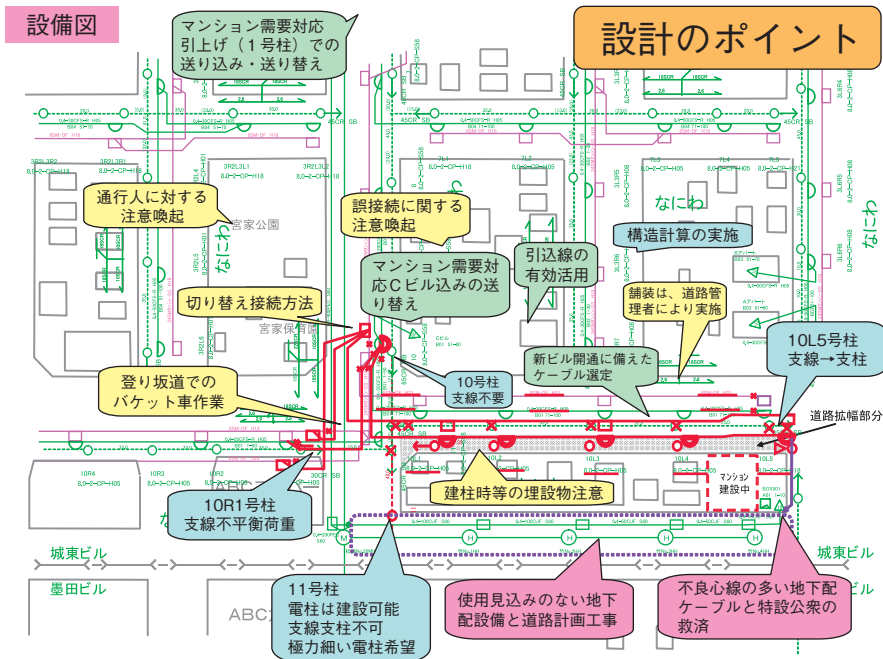


図2 設計競技での設計ポイント1/2

設計現場写真・マップ

設計のポイント

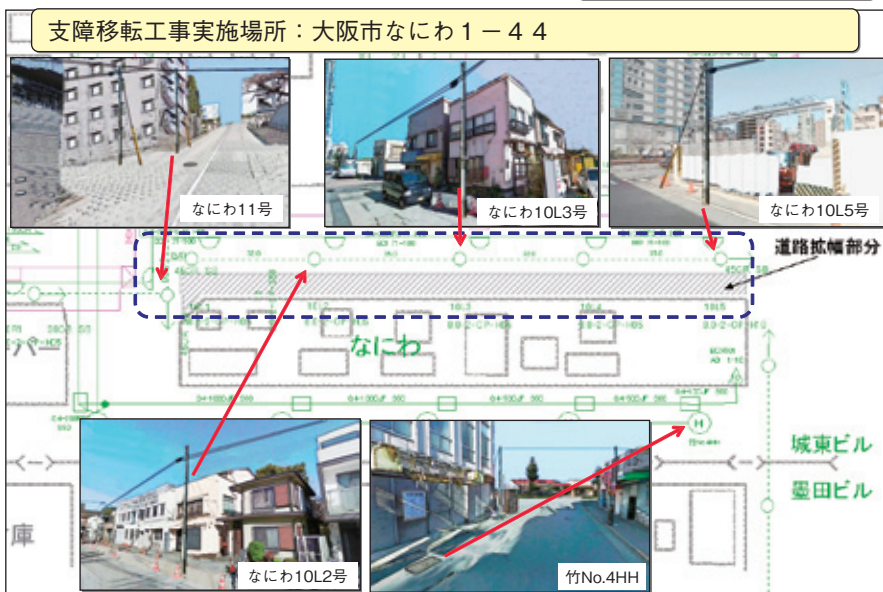


図3 設計競技での設計ポイント2/2

目のコンテストということもあり、前回より設計のレベルが全体的に向上しておりました。設計者の設計技術が向上しているということは、いうまでもなく良いことではありますが、事務局としては、次回のコンテストに向けて、さらに知恵を絞って課題作成にあたらねばと気を引き締める次第です。

(2) 算定競技

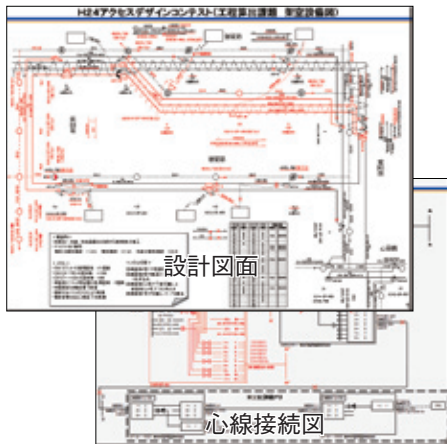
算定競技についてもサービス総合工事の支障移転工事を題材にして、すでに実施設計された設計図面を基に適用工程を算定するものとしています(図4)。通常は1時間から1時間30分程度を要する課題となっており、誤りやすい工程適用を含んだ課題設定として算定が正確に実施でき

算定競技イメージ

算定課題

実施設計済みの設計図面を基にサ総工程を算出し、工程調書を作成。

【課題】



【回答】



提出書類作成

工程数量を記入

図4 算定競技イメージ



写真7 NTT-ME 小澤アクセス EG 部門長による講評



写真8 ITEA 高江州副会長（技術／品質委員会 委員長）による閉会の挨拶

手の設計内容について熱心に視聴されており、各社の特徴ある設計ノウハウの共有が図れました。

4. 表彰

設計競技と算定競技の審査結果が総合的に優秀であった上位8チームと各審査項目で際立って優秀なチーム（特別賞2チーム）に表彰状を授与させていただきました。特に優勝、準優勝、3位に入賞したチームには、金・銀・銅のメダルも贈呈させていただきました。表彰式は、競技会場から場所を変えて、ITEA副会長 兼 技術／品質委員会の高江州委員長より直接各選手へ表彰状とメダルを授与しました（表2）。

今回の審査結果を見るとかなり拮抗した結果となっており、惜しくも入賞しなかった選手の方々も多くの優れた設計や正確な工程算出がなされており、審査員泣かせでもありました。次回へのリベンジや日常での選手・後輩設計者の育成等に、どうか励んでいただきますようお願いいたします。



写真9 選手全員での記念撮影

表2 受賞者一覧

優勝	協和エクシオ	Bチーム	仲山友規、大島裕勇	
準優勝	ミライト	Fチーム	岡田康孝、倉澤淳也	
3位	四国通建	Qチーム	岡田英樹、渡邊慶一	
4位	日本コムシス	Dチーム	帆足有市、村田祐司	
5位	つうけん	Uチーム	小笠原博崇、谷陽介	
6位	ミライト・テクノロジーズ	Mチーム	高瀬智明、柳下登	
7位	TOSYS	Iチーム	渡部広樹、三冨誠	
	西部電気工業	Rチーム	光武勉、西峯輝	
特別賞	提案設計賞	協和エクシオ	Cチーム	麻田悟史、山田泰之
特別賞	的確設計賞	池野通建	Aチーム	中西誠也、小林忍

5. 最後に

(1) 反省点

本コンテストでは、普段設計に用いているCADソフトを使用できるよ

うに、パソコンの持ち込みを可能としています。今回の最大の反省点として、3チームが用意していたCADソフト用のファイルが動作しないというトラブルが発生してしまいま

た。これにより設計図面の作成を手書きや他ソフトに変更することとなり大変ご迷惑をお掛けしてしまいました。お詫びするとともに、今後は、事前のプレビューと各選手による動作チェックを確実に行ったうえで次回以降このようなことが起こらないようにしていきます。

(2) 本コンテストを通じたお願い

今回コンテストに使用した課題と、選手の皆様が作成した優良設計を事例集としてフィードバックさせていただきました。良い設計事例については、競技のためだけでなく、日常の設計業務へ是非とも反映し、各社での設計技術の向上に役立てていただきますようお願いいたします。

来年度も開催を計画していますので、上司のプレッシャーも何のその！我こそは！とぜひともチャレンジしていただきますよう期待しております。

(3) おわりに

来年度も開催を計画していますので、第3回アクセスデザインコンテストの開催にあたり、ご支援ご協力いただいた多くの皆様に心より感謝しております。誠にありがとうございました。



写真10 表彰会場でのNTT 西日本アクセス設備部門 右田担当部長のご挨拶



写真11 表彰会場でのNTT 東日本 野池アクセス高度化部門長のご挨拶



写真12 優勝チーム（協和エクシオ 仲山 友規様と大島 裕勇様 Bチーム）



写真13 受賞者と高江州委員長